

井口医師、岡野師長、丸岡看護師、元気に医療支援に出発！

昨日、あすなろ生協診療所を17時40分に、広島駅経由、東京から現地へと医療支援に出発しました。

現地では、食料も水も不足している為、支援者自らの食料なども持っていく必要があり、寝袋、床に敷くシートも含めて大荷物になりました。出発に当たって、村田院長、浜崎副院長も駆けつけ激励されました。

3名は、昨日は東京のホテルで宿泊し、本日10時に現地に向けて出発します。

昨夜11時半に電話すると「今やっとホテルにつきました。ホテルは明かりがついているけど、まわりが真っ暗でホテルを見つけるのに苦労しました」ということでした。

丸岡看護師の言葉に胸が熱く！

★出発に当たって、丸岡看護師に内田から今回志願した理由について聞いてみました★

「私が看護師になりたいと思ったのは、こんな大きな災害や多くのけが人が出たようなときに、その人たちをすぐに助けることをしたかったからなんです。だから、今回志願しました」と応えてくれました。

この話を聞いて、医療従事者としての熱い思いを感じ、胸が熱くなりました。

みんなの思いのこもった支援物資を満載して、本今朝7時に輸送部隊出発！

急遽メンバー変更となった、メディカルフィットネスの楠岡マネージャー、岡野事務次長、花岡県連事務局長が運転して、東京の全日本民医連事務所まで支援物資を運びます。

昨日は、組織部、実習の医学生などで物資の梱包、積み込み作業を行いました。また、福山の備後の里とドレミ薬局からも、持って行って欲しいと物資が届けられました。また、病院玄関の表示を見られた方が、ミネラルウォーターを大量にもってこられるなど、とにかく支援したいという気持ちのこもった多くの物資が集まり、トラックの荷台はいっぱいになりました。

今日は寒い朝でしたが、3名は元気に手を振って病院駐車場のゲートをくぐって出発しました。

<現地では>

福島県の病院から自衛隊などに救助された患者さんのうち20数名が避難所で亡くなったというニュースが流れました。患者を診た医師は、「引継ぎはなく、どんな病気かも分からず、手の打ちようがなかった」と言っておられるようです。現地は厳しい寒さ、衛生状態の悪さと物資の不足で、せつかく助かった命が失われようとしています。

私たちのできる支援を継続していきましょう。

<私たちのできること>

○まず、節電や必要以外のことで自家用車を使用しないなどの協力の仕方があると思います。

○そしてカンパです。

○引き続き、現地への支援要請がくると思います。組合員さんもふくめて、阪神淡路大震災の経験も活かしながら支援活動を進めていきましょう。

……写真は、次号に掲載予定です……